

季刊・オーディオ アクセサリー

Audio Accessory

2019 SUMMER 173

重点アクセサリー研究

「電磁波」を防げ！
新世代インターコネクト
ケーブル徹底比較

“ミドル・ハイエンド”スピーカー ×
プリメインアンプ・スクランブルテスト

特別付録

山口 葵 JAZZ サンプラー
CDフォーマットと
MQAの
聴き比べができる
サンプラーCD

山口 葵が歌う
折々の伝統楽曲集

【コンテナー】
1. 44.1kHz/16bit PCM
2. 44.1kHz/18bit MQA
3. 88.2kHz/24bit MQA (Studio)
【A面】
4. 44.1kHz/16bit PCM
5. 44.1kHz/18bit MQA
6. 88.2kHz/24bit MQA (Studio)
7. 44.1kHz/16bit PCM
8. 44.1kHz/18bit MQA
9. 88.2kHz/24bit MQA (Studio)
【The Water is Wide】
10. 44.1kHz/16bit PCM
11. 44.1kHz/18bit MQA
12. 88.2kHz/24bit MQA (Studio)

Audio Accessory 173 特別付録



AA誌の注目記事は
WEBでも楽しめます



Finest Music Components

Handmade in Germany

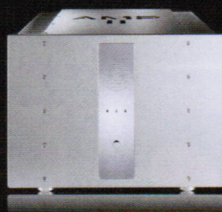
フルラインアップまで拡大したアコースティック・アーツのリファレンスラインを
最上の組み合わせで実演！

ダイナミックオーディオでご試聴いただけます。

DYNAMIC AUDIO

7F

AMP III
TUBE PREAMP II
TUBE DAC II
DRIVE II
RACK II



「しなやかな切れ味」

DYNAMIC AUDIO

6F

MONO III + BASE
TUBE PREAMP II
TUBE DAC II
TUBE PHONO II
DRIVE II



「意外な温もり」

DYNAMIC AUDIO

4F

AMP III
TUBE PREAMP II
PLAYER II
PLAYER ES



「やさしい音」

DYNAMIC AUDIO

**Trade
Center**

POWER I
AMP III
TUBE DAC I
PLAYER II
PLAYER ES



「ストレートな存在感」

株式会社 ハイ・ファイ・ジャパン

〒102-0075 東京都千代田区三番町1-8

tel: 03-3288-5231 fax: 03-3288-5233

www.accusticarts.com / www.hifijapan.co.jp

EVOLUTIONシリーズの 拡張性に注目

Text by 石原 俊 *Shun Ishihara* / Photo by 田代法生



CREEK

EVOLUTION 50A

プリメインアンプ
¥167,000(税別)

EVOLUTION 50P

パワーアンプ
¥150,000(税別)

イギリスのCREEK(クリーク)は、設立以来コンパクトでコストパフォーマンスの高いモデルで注目を集めてきた。現在の主軸である「EVOLUTION」シリーズの大きな特徴のひとつが、拡張性の高さである。今回はEVOLUTION 50のCDプレーヤー、プリメインアンプ、パワーアンプを用い、その拡張性の可能性を探ってみたい。



EVOLUTION 50CD

CDプレーヤー
¥203,000(税別)

Specifications

<EVOLUTION 50CD> ●デジタル入力:SPDIF(192kHz/24Bit)×2、Toslink(192kHz/24Bit)×2、USB 2(96kHz/24Bit) ●デジタル出力:SPDIF、Toslink ●出力インピーダンス:47Ω ●SN比:>110dB ●アナログ出力:RCA(2.0V RMS)、XLR バランス(4.0V RMS) ●メカ:CD slot-loader ●DAC:192kHz/24Bit Wolfson WM8742×2 ●消費電力:20W ●サイズ:430W×60H×280Dmm ●質量:5.5kg ●仕上げ:Silver(標準)、Black(受注生産 +¥15,000)

<EVOLUTION 50A> ●出力:55W/ch(8Ω)、85W/ch(4Ω) ●最大供給電流:±26A/0.5Ω、50mS ●歪み:<0.005% 2/3 rated power 8Ω ●周波数特性:Line 10Hz~100kHz ±2dB、Blanced 10Hz~50kHz ±2dB ●利得:Line ×46(33.3dB)、Blanced ×22.5(27.0dB) ●入力感度:410mV ●クロストーク:-80dB at 1kHz ●SN比:>102dB ●セパレーション:>80dB at 1kHz ●消費電力:最大 350W、待機 10W ●サイズ:430W×60H×280 Dmm ●質量:7.5kg ●仕上げ:Silver(標準)、Black(受注生産 +¥15,000)

<EVOLUTION 50P> ●出力:55W/ch(8Ω)、85W/ch(4Ω)、150W(8Ω、mono)、220W(4Ω、mono) ●最大供給電流:26A/stereo、50A/mono、0.5Ω ●歪み(THD):<0.005% 20Hz~20kHz ●出力インピーダンス:<0.1Ω @1kHz ●SN比:>102dB ●周波数特性:Line 10Hz~100kHz ±2dB ●利得:×46(33.3dB) ●入力感度:410mV ●クロストーク:-80dB at 1kHz ●セパレーション:>80dB at 1kHz ●消費電力:最大 350W、待機 <20W ●サイズ:430W×60H×280 Dmm ●質量:7.5kg ●仕上げ:Silver(標準)、Black(受注生産 +¥15,000) ●取り扱い:(株)ハイファイ・ジャパン



シンプルなデザインのEVOLUTION 50P



大ぶりなボリュームとセクターのノブを採用したEVOLUTION 50A



中央に液晶ディスプレイが配されたEVOLUTION 50CDのフロントパネル。ボリューム機構を持ち、リモコンでコントロールすることができる(本体での設定が必要)



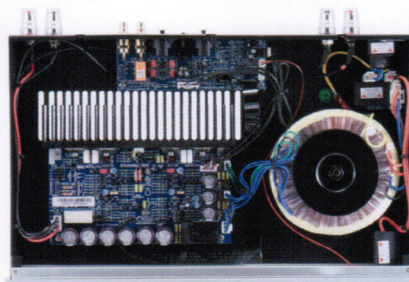
50Pのアナログ入力RCAとXLR各1系統。スピーカー出力端子は1系統を装備



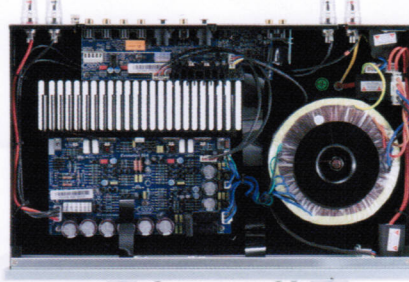
50Aは標準で5系統のアナログ入力(RCA×5、XLR×1。INPUT 4はRCAとXLR兼用)を装備する。スピーカー出力は1系統



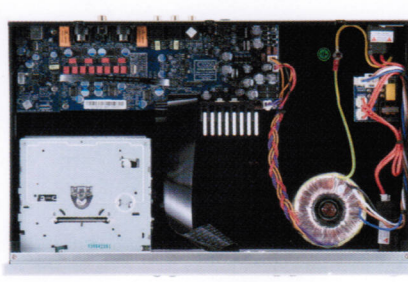
50CDのアナログ出力はRCAとXLR各1系統。デジタル出力はRCA同軸と光TOS。デジタル入力はUSB Bタイプ、RCA同軸×2、光TOS×2の5系統を装備。192kHz/24bitに対応している



大型電源トランスを搭載した50Pの内部。ヒートシンクを中央に置いたレイアウトなど、50Aと共通する点が多い



50Aの内部。大型の電源トランスを搭載している。オプションのカードは入力端子に近い位置に挿入する



50CDの内部。ドライブメカはスロットインタイプ



EVOLUTIONシリーズ共通のリモコン。CDプレーヤー、プリメインアンプともにこのリモコンで操作できる

拡張性の高い ベーシックモデル

クリークはイギリスのオーディオ・エレクトロニクス・メーカーである。創業者のマイク・クリークがプリメインアンプの一号機、4040を発売したのは1981年のことだった。その頃からスピーカーの小型化・低能率が進むとともに、世界中のアンプが高性能化・高価格化するようになったのだが、クリークは「ローコスト・ハイパフォーマンス」という設計思想を掲げ、常識的な価格の高性能機を市場に供給してきた。

EVOLUTIONは同社のベーシックなオーディオエレクトロニクスのラインアップである。CDプレーヤーの50CDは一見シンプルだが、内容はなかなか濃い。

電源トランスはデジタル用とアナログ用に各1基ずつ用いられており、ディスクトランスポートとDACに独立した回路が与えられている。DAC部にはUSB入力もあつて、PC等と接続することも可能だ。また、このクラスの海外製品としては珍しくバランス出力を装備している。

EVOLUTION 50Aは出力50W×2(8Ω)のプリメインアンプだ。外観は軽そうに見えるが、持ち重りのする筐体はしっかりと作られている。プリアンプ部の音量調整回路は電子式だ。パワーアンプ部の終段の素子はバイポーラトランジスターで、二段ドライバー・トーン回路×2で構成されている。バイアスは一般的なAB級動作だ。入力シングルエンドの他、バランスも装備している。オプションは豊富で、フオノカード、チューナーモジュール、USB DACが用意されている。EVOLUTION 50Pは50Aのパワーアンプ部を単体化したものだ。三者を組み合わせると、スピーカーのバイアンプ駆動が比較的簡単に行うことができる。今回は50Aの単体使用と50Aと50Pによるバイアンプの音を聴き比べ

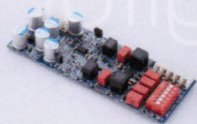
てみようと思う。

バランスのとれた 表現を聴かせる

まずは50CDと50Aの組み合わせを聴いた。英国流のグッドリプロダクション・サウンドである。情報量が飛び切り多いわけではなく、ピアノのメカニズムの表現は精緻とまではいかない。スピーカーをねじ伏せるような振る舞いをするわけでもない。しかしながら音楽があるがままに描いてくれるので、肩ひじを張らずにリラックスして聴くことができる。エネルギーバランスはすんとした摩天楼型。ビククリするほどの低音が出るわけではないのだが、出すべきところではキッチリとした仕事をし、さらには時として非常に高いポテンシャルの片鱗を感じさせる。音楽的には楽曲・演奏に対して介入しないタイプだが、瑕疵を積極的に暴き出すことはない。ジャズはバランスのとれた表現を聴かせる。ある種のヴィンテージ機のようにジャズを一定の型にはめるのではなく、柔軟な描き方をするのでスイング期やモダン期とは異なる趣の演奏も聴きやすい。音楽的な分解能も高く、各楽器の動きを楽々と追いかけること

EVOLUTIONシリーズのオプション

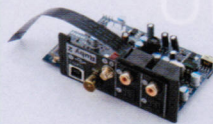
EVOLUTIONシリーズのプリメインアンプ(50A、100A)は、オプションモジュールを使用して機能を拡張することができるのが大きな特徴である。現在ラインアップされているのは、フォノカード、FM/AMチューナーモジュール、DAC/FMチューナーモジュールの3種類。また、EVOLUTIONシリーズのパワーアンプを2台用いてブリッジ接続をするためのアダプターも用意されている。



SEQUEL MK3

フォノカード ¥35,000(税別)

●入力インピーダンス:47kΩ●利得(切換):40 dB (×100) MM型カートリッジ出力 2.5~5.0mV、50 dB(×316) 高出力MC型カートリッジ出力 0.9~2.5mV●周波数特性:10Hz~20kHz ±0.5dB●低周波数の補正(切換):EQ/RIAA(フラット)、IEC/7950μs(20Hz ロールオフ)●入力キャパシタンス(切換):100pF、200pF●SN比:> 80dB/利得40dB、> 70dB/利得50dB●負荷の利得:15dB●歪み(THD):<0.005%



RUBY 2 DAC

DAC/FMチューナーモジュール

¥97,000(税別)

●デジタル入力:Toslink(192kHz/24bit)×2、SPDIF(192kHz/24bit)×2、USB(192kHz/24bit)、Bluetooth(日本仕様は未対応)●DAC:Wolfson WM8742 192kHz/24bit●SN比:>125dB(stereo at 48 kHz)●THD:<0.001% 48kHz●FMチューナー:周波数/76-108 MHz(バンド設定要)、プリセット/100局、受信感度/-3.5dBuV、周波数特性/30Hz-16kHz -1dB、THD/<0.05%、セパレーション/>40dB、SN/>70dB stereo



AMBIT TUNER

FM/AMチューナーモジュール

¥29,000(税別)

●受信周波数帯域:FM 76~108 MHz(バンド設定要)、AM 520~1710 kHz MW●プリセット:FM/AM >100●選局:手動/自動●FM感度:-3.5dBuV 26dB audio & max RF gain●周波数帯域(FM):30Hz~16kHz -1dB●歪み(THD):<0.05%●ステレオセパレーション(FM):>40dB●SN比(FM):>70dB (Full limiting) Stereo



Power Amp Bridging Adaptors

ブリッジ接続用アダプター

¥32,000(ペア、税別)

EVOLUTION 50Pをブリッジ接続のモノラルパワーアンプとして使用する際のアダプター。50CDと2台の50Pを組み合わせ、50Pを150W(8Ω)のモノラルアンプとして用いることができる。その際は、50CDのアナログ出力を可変に設定する必要がある

ディテールが聴覚にどんどん流れ込んでくる
これはオーディオ的な官能である

ミュージカリティの高い
バイアンプリシステム

ここでシステムに50Pを加え、スピーカーの入力端子のジャンパー線を外し、50Aと50Pから独立したケーブルで2系統の入力端子に給電するバイアンプリ接続とした。50Pには50Aのブリアンプリ出力から入力した。基本的には同じような音である。しかしながら解像度が大きく異なる。50A単体が垣間見えた高いポテンシャルが常に得られるようになり、

50A単体では描ききれなかったピアノのメカニズムの姿や響板の鳴りを視覚的に描き出している。それでいて英国流のグッドプロダクション・サウンドは保たれており、ある種の高級機のような神経質さや冷酷さはない。
ジャズはヴェールを何枚もはぎ取ったかのようなフレッシュな表現を聴くことができる。分解能が素晴らしく、3ホーンのセクステットの各楽器がキレイに分離して聴こえるので演奏の意味合いが理解しやすい。ヴォーカルは50A単体使用時よりもはるかに滑らかだ。逆に言うと生身感や生命力が後退し、歌手の体臭のようなものが感じにくくなっているのだが、そのぶん清楚さは増加している。クラシックは迫力・情報量とも倍増しているような印象だ。こちらから聴きに行かなくてもディテールが聴覚にどんどん流れ込んでくる。これはオーディオ的な官能であり、音楽の喜びだと思う。
同じ結線のまま50Aに取りつ

けたフォノボードを利用してアナログレコードも聴いてみた。聴いたレコードはウィーン・フィル/ベームによるベートーヴェンの『田園 第1楽章』である。この楽章ではヴァイオリンの旋律にしばしばフルートが絡む。整備されたシステムであればフルートは高解像度で表現されるし、超高級システムならフルート奏者の息遣いまで感じることもできる。今回組んだバイアンプリシステムはそこまでの解像度はなかった。しかしながら、このフルートの動きが鳥の鳴き声を模していることは明確に感じとれた。この表現はクリークのバイアンプリシステムのミュージカリティの高さを物語っている。
バイアンプリドライブへの道筋をつけているクリークのシステムは拡張性が高く、さまざまな楽しみを提供してくれる。オーディオ愛好家はもとより音楽愛好家にも自信をもってお勧めする。